取扱説明書

VZ-8light³ & VZ-8plus³

日本語版

詳細については弊社のホームページをご覧ください。
www.wolfvision.co.jp

〈安全に関する注意事項〉

以下の注意に従って下さい：

●本機を使用する時はステッカーの指示通りに必ず正しい電圧でご使用下さい。
日本国内では AC100V のコンセントで使用して下さい。

●本機を極度な高熱や湿気などにさらさないように気をつけて下さい。

●本機を運搬する際は、本体に過度の衝撃を与えないようにご注意下さい。

●本機が発する熱を冷却するため、換気のよい場所でご使用下さい。

●何らかの異常（雑音、臭い、煙など）がある場合は直ちに電源ケーブルを抜き、ビジュアライザーの取扱店までご連絡下さい。

●破損した電源ケーブルや電源は、ショートや感電の原因になるので使用しないで下さい。

●危険を避けるため、ビジュアライザーを改造したり、カバーパネルが所定の位置にしっかり固定されていない状態で操作しないで下さい。

●本機が水、金属あるいは引火性の物質に触れないようにご注意下さい。

●本機を設置する場合、放射性物質のある環境は避けて下さい。

●また、強い磁場や強い電流が流れている場所も避けて下さい。磁気や電流はモニター画像の歪みの原因になり、CCDカメラにもダメージを与えます。

●本機を長時間使用しない場合は、電源ケーブルを抜いて下さい。

●付属の電源アダプタはビジュアライザー専用です。付属のもの以外はビジュアライザーに使用しないで下さい。
Only use for outside of Japan: The external Power Supply has to be approved by CSA or UL in Accordance to CSA 22.2-60950 or UL 1950. The outputs have to be LPS (limited power source) rated!

内蔵レーザーポインターに関する注意:

遮断厳禁
レーザー光線は
この穴から発しています

レーザー光線を凝視
しないで下さい。
レーザー クラス2 製品
出力：1mW以下
周波数： 650nm
EN 60825-1 1997年3月

FDA accession number:
9912688-00

この製品は
21 CFR 1040.10
及び 1040.11に
準拠しています

本製品は、EMC指令と電気機器指令に適合しています。

本製品は FCC（米国連邦通信委員会）規制15条に基づいて検査され製造されたクラスBのデジタル機器です。これらの規制は、機器を商業環境で使用することにより発生する電波障害を適切に予防するために考案されたものです。本製品は、電波を発生・使用・放射するため、取扱説明書に従って正しく使用しない場合には、電波障害の原因となることがあります。住宅地区にて本製品を使用する場合は、周辺に電波障害を引き起こすことがあり、この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

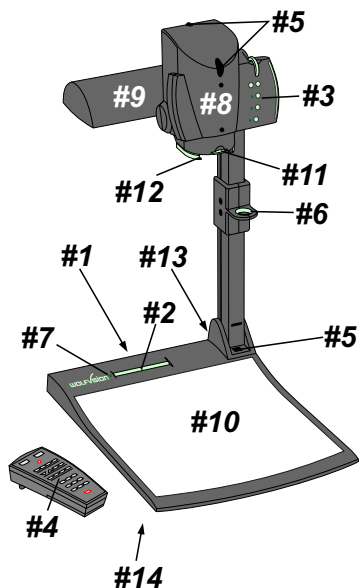
UL 60950. CSA 22.22-60950 準拠 PCT-Scheme 準拠

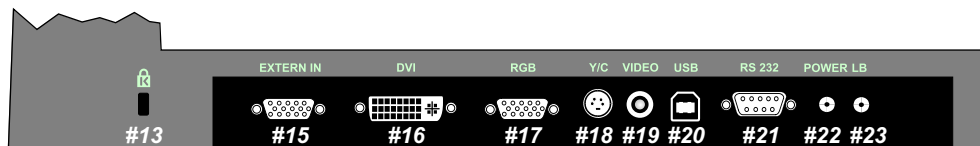
CB-Scheme 準拠

VZ-8plus³および VZ-8light³は、オーストリアのWolfVision社によって開発・設計されたビジュアライザーです。

この製品はオーストリア製です。

2008年9月 日本にて印刷

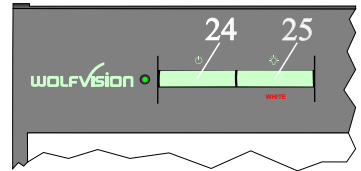
製品のデザインおよび仕様は変更する場合があります。

#1 接続端子（背面、詳細は下記参照）
#2 電源・ライト　オン/オフキー（3ページ参照）
#3 カメラキー、ズームハンドル（3ページ参照）
#4 赤外線リモートコントロール（**VZ-8plus³のみ**、4ページ参照）
#5 赤外線受光部（**VZ-8plus³のみ、**カメラヘッド上に2つ、アーム基部にひとつ）
#6 アーム上下用リング（5ページ参照）
#7 電源表示LED （5ページ参照）
#8 カメラヘッド（3、5、6ページ参照）
#9 ライト（3、5、6ページ参照）
#10 ワーキングプレート（5ページ参照）
#11 クローズアップレンズ（6ページ参照）
#12 スライドドロワー（**VZ-8plus³のみ、**6ページ参照）
#13 Kensington®ロック用スロット（背面）
#14 盗難防止装置（底面裏、9ページ参照）

接続端子 *(#1)*

#13 **Kensington®ロック用スロット**（9ページ参照）
#15 コンピューター用**外部入力端子**（9ページ参照）
#16 **DVI**出力端子
#17 **RGB**出力端子（10、11ページ参照）
#18 **PAL/NTSC Y/C** (Sビデオ) 出力端子 （**VZ-8plus³のみ**、11ページ参照）
#19 **PAL/NTSC コンポジットビデオ**出力端子（**VZ-8plus³のみ**、11ページ参照）
#20 **USB**ポート（11ページ参照）
#21 **RS232** シリアル入力ポート（11ページ参照）
#22 **電源入力端子** 12V
#23 ライトボックス用**DC**出力端子（11ページ参照）

ビジュアライザーの操作キー

本体

#24 電源キー
本体の電源のon/offを行います。電源を入れるとパワーオンプリセットが自動的に作動します。

#25 ライトキー
トップライトのon/offを行います。
オプションの外付けライトボックスを接続した場合は、トップライト、外付けのライトボックス、ライトoffの切り替えを行います。
2秒間ライトキーを押し続けると、ワンプッシュホワイトバランスキーとして機能します（7ページ参照）。

カメラヘッド

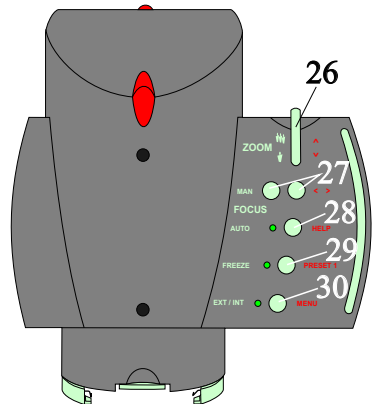
ヴォルフビジョンのポータブルビジュアライザーの優れた性能の一つは、必要不可欠なキーのみが本体についている点です。説明がなくてもどなたでも簡単に使うことができます。
操作に慣れたユーザーは、VZ-8plus³ 付属のリモコンを使って更に便利な機能調整を行うこともできます。リモコンにある機能のほとんどは、カメラヘッドにあるキーでも操作することが可能です。

#26 ズームハンドル（メニュー：選択用）
ズームハンドルを下方へ回すとズームイン（TELE）し、上方に回すとズームアウト（WIDE）します。
ズームハンドルを回す程度に応じて、ズーム調整のスピードも速くなります。
ズームキー（ハンドル）を使うと、オートアイリスが作動します。
オンスクリーンメニュー起動時には、メニューを選択する際のスクロールハンドルとして機能します。

#27 マニュアルフォーカス（メニュー：決定キー）
マニュアルフォーカスキーを押すと、オートフォーカス機能は解除されます。
AFキーを押すと、オートフォーカスが復活します。
オンスクリーンメニュー起動時には、選択したメニューの決定キーとして使用できます。

#28 オートフォーカス（AF）キー（メニュー：ヘルプキー）
オートフォーカスのon/offの切り替えを行います。 AFライトは、オートフォーカスが作動すると点灯します。
オンスクリーンメニュー起動時には、ヘルプキーとして使用できます。
2秒間押し続けると、選択しているメニュー項目をデフォルト設定にリセットできます。

#29 フリーズキー ／ プリセット1キー
映像を静止画像にすることができます。フリーズライトは、フリーズモード作動中に点灯します。
2秒間押し続けると、プリセット1を呼び出すことができます（7ページ参照）。

#30 外部入力切替（EXT/INT）キー ／ メニュー表示キー
ビジュアライザーの映像と外部からの入力映像との切り替えを行います（詳細は12ページ参照）。
EXT/INT ライトは、外部からの入力映像が表示されている時に点灯します。
また、1秒間押し続けると、オンスクリーンメニューを表示することができます（13ページ参照）。

赤外線リモートコントロール　（VZ-8plus³ のみ）

#31 **ズームキー**
ズームキーは、カメラヘッドにあるズームハンドルと同様に機能します。ズームキー（ハンドル）を使うと、オートアイリス機能が復帰します。

#32 **レーザーポインターキー**
重要：目に悪影響を及ぼす恐れがありますので、レーザービームを凝視しないでください。

#33 **プリセットキー（プログラム設定）**
設定を保存するには、PRESETキーのいずれかを2秒間押し続けてください。保存したプリセットを呼び出す際は、呼び出したい番号キーを素早く押してください（7ページ参照）。

#34 **イメージターンモードキー**
A4の縦長原稿を高い解像度で表示する際に使用します（8ページ参照）。

#35 **オートフォーカス（AF）キー**
オートフォーカス機能のon/offを行います。

#36 **マニュアルフォーカスキー**
フォーカスキーを押すと、オートフォーカス機能が解除されます。次にAFキーを押すと、オートフォーカス機能が復帰します。

#37 **外部入力切替（EXT/INT）キー**
ビジュアライザーの映像と、外部からの入力映像の切り替えを行います（9ページ参照）。

#38 **ALLキー**
保存した9つの画像のすべてを分割表示します（8ページ参照）。

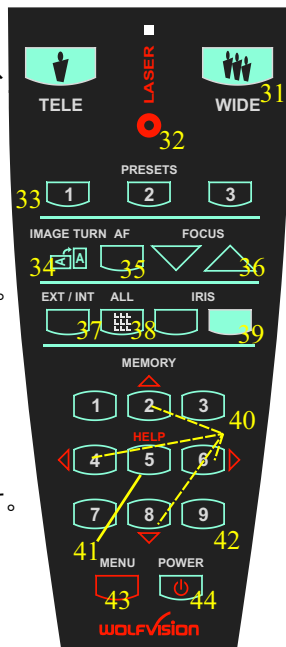
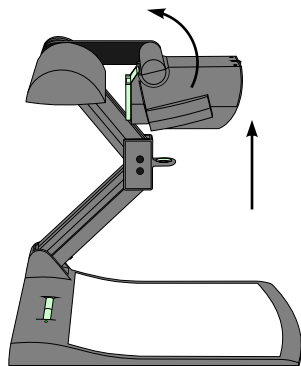
#39 **マニュアルアイリスキー（明るさ調整）**
アイリスキーを押すと、オートアイリス機能は解除されます。次にズームキーもしくはズームハンドルを使うと、オートアイリス機能が復帰します。
上級ユーザーの皆様へ：全体的な明るさ調整は、オンスクリーンメニューで行うことができます（13ページ参照）。

#40 **矢印キー（2、4、6、8はメモリー機能併用）**
オンスクリーンメニューの操作を行うのに使用します（13ページ参照）。

#41 **オンスクリーンメニューのヘルプ/リセットキー（5番キーはメモリー機能併用）**
オンスクリーンメニュー操作中に5番キーを押すと、ヘルプ画面が表示されます。
このキーを2秒間押し続けると、選択したメニュー項目をリセットできます（13ページ参照）。

#42 **メモリーキー：1 - 9**
画像の保存、呼び出しに使用します（8ページ参照）。

#43 **メニューキー**
1秒間押し続けると、オンスクリーンメニューが表示されます（13ページ参照）。

#44 **電源キー**
本体の電源のon/offを行います。本体に電源が入ると、パワーオンプリセットが作動します。

ビジュアライザーのセットアップ

1. 電源アダプターを電源入力端子(#22)に接続します。
2. ディスプレイ機器（プロジェクター、モニター、ビデオ会議システム等）をビジュアライザーの適切な出力端子(#16、 #17、 #18、#19 、 #20)に接続します。

> **重要**：
> 正しい出力の選択については、10ページの詳細説明を参照してください。

3. リング（#6）を持ってアームを引き上げてください。
4. カメラヘッドを被写体の方向に向けます。
5. 電源キーを押してビジュアライザーの電源を入れます。

パワーオンプリセット：
本体に電源が入ると、自動的にパワーオンプリセットが作動します。
ズームサイズは約20×15cm（A5サイズ）で、オートフォーカス、オートアイリスが作動する設定になっています。

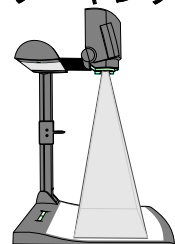
ワーキングプレート

ビジュアライザーのワーキングプレート（#10）は特殊なクリスタルホワイトを採用し、透過原稿の色を完璧に再現するよう設計されています。
次のような場合は、オプションのライトボックスのご使用をお薦めいたします。
-非常に暗い色の透過原稿
-透過原稿の表面が波打っていて反射を引き起こす
-室内照明が透過原稿上で反射する

外付けライトボックス（オプション）

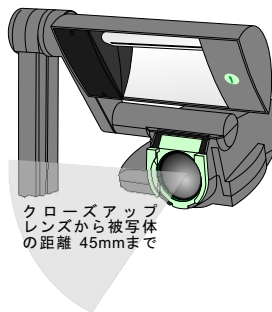
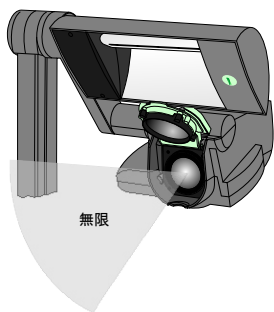
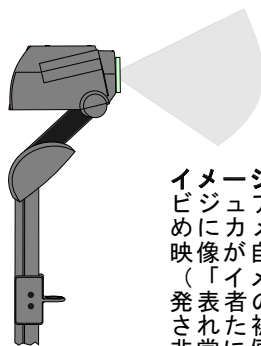
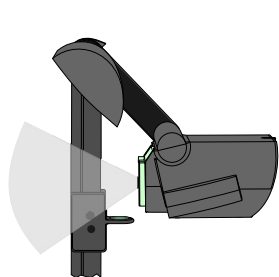
ビジュアライザーの背面にあるライトボックス用コネクター（#23）に、ライトボックスの電源コードを接続してください。ビジュアライザーのLIGHTキー（#25）が、ビジュアライザーとライトボックスのライトの切り替えスイッチになります。

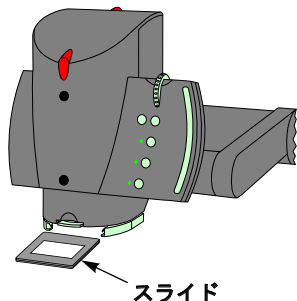
ライトボックスを他の電源に接続した場合は、反射を防ぐため、必ずビジュアライザーのライトは消してください。

ワーキングプレート上の撮影範囲

反射の解消
写真などの光沢のある被写体の場合、光の反射を防ぐため、撮影する被写体や文書を少し動かしてから、被写体が撮影範囲の中心にくるようにカメラヘッドを回転させてください。ライトのついたカメラアームを上下に動かしてから、被写体が撮影範囲の中心にくるようにカメラヘッドを回転させ、反射を防ぐことも可能です。

通常の室内照明でも反射が発生することがありますので、ご注意ください。

ワーキングプレート外の撮影

クローズアップアダプターレンズ
ワーキングプレート外にある被写体を撮影する場合は、クローズアップレンズ（#5）をはずしてください。蝶番でカメラに固定されているクローズアップレンズをはずすだけなので、完全にはずれることはなく、紛失する恐れはありません。ワーキングプレート上の撮影に戻る場合は、クローズアップレンズをもとの位置に戻します。

カメラアームの上下調整
ワーキングプレート外の被写体も照明を当てて撮影するために、カメラアームとライトを一緒に上下に動かせるようになっています。

イメージフリップ
ビジュアライザー前方を撮影するためにカメラヘッドを回転させると、映像が自動的に180度回転します（「イメージフリップ」）。
発表者の顔や、本体後方の壁に設置された被写体などを撮影する場合に非常に便利な機能です。

スライドドロワー（VZ-8plus³のみ）

まず始めに、ワーキングプレート上に何もないことを確認してください。これは非常に重要です。
次にスライドドロワーにスライドを差し込みます。
カメラは自動的にスライドを認識し、フォーカス調整を行います。
スライドのフォーカスが合わない場合：
- -スライドがきちんと差し込まれているか確認してください。
- -ズームが最大の状態（最小画像）になっていないか確認してください。ズームキー/ハンドル（#26または#31）で調整します。

オートフォーカス

白紙のようにコントラストが非常に弱い被写体の場合、フォーカス調整が難しくなります。オートフォーカスがうまく作動しない場合は、少しだけ被写体を動かしてください。
特殊な使い方の場合、on/offスイッチ（#28または#35）を使ってオートフォーカスを解除することができます。マニュアルフォーカスキー（#27または#36）でも、オートフォーカスが解除されます。

デジタルズーム

ビジュアライザーは光学12倍ズーム、デジタル2倍ズームをあわせた24倍ズームを備えています。デジタルズームを使用しない場合のワーキングプレート上の最小撮影範囲は23×31mmです。さらにズームすると、デジタルズームが自動的に作動し、最小12×16mmの撮影が可能になります。ただし、デジタルズームを使用しても、使用前の解像度より悪くなりますのでご注意ください。
デフォルトでは、デジタルズームが作動した場合、スクリーンにメッセージが表示されるよう設定されています。
メモリーに保存した静止画像も、デジタルズームで拡大することができます。
オンスクリーンメニューで、デジタルズームモードの設定を変更することができます（13ページ参照）。

ホワイトバランス

正しい色を再現するためには、正確なホワイトバランス調整が重要になります。
工場出荷時のビジュアライザーは、「Auto Tracking（自動調整モード）」に設定されているので、ホワイトバランスは常に自動調整されるようになっています。
正確なホワイトバランス調整のためには、映像の10%以上が白である必要があります（測定範囲は映像の中心部分）。
より精密なホワイトバランス調整を行う場合は、「ワンプッシュ」ホワイトバランス機能を使用します。ワーキングプレート上の白い紙を画面いっぱいまで拡大し、LIGHTキー（#25）を2秒間押し続けます。ホワイトバランスが決定するとスクリーン上にメッセージが表示されます。「ワンプッシュ」ホワイトバランスに設定されると、「Auto Tracking」モードは自動的に解除されます（本体の電源を切り、再び電源を入れると、「Auto Tracking」モードに戻ります）。照明条件（ライトボックス、太陽光、室内照明など）が変わった場合は、ホワイトバランスを再調整してください。

上級ユーザーの皆様へ：「Auto Tracking」、「One Push」、「Manual」ホワイトバランスの各モードは、オンスクリーンメニューで切り替えることができます（13ページ参照）。
ライトボックスを使用してネガ透過原稿を撮影する場合は、ネガフィルムの空欄部分（映像の黒い部分）でホワイトバランスを調整してください。
「One Push」ホワイトバランスは、それぞれトップライトと外付けのライトボックス用に調整、保存してください。

プリセット機能

ビジュアライザーは、リモコン上の3つのPRESETキー（#33）で、現在の設定をプリセットとして保存したり呼び出したりすることができます。
プリセット1は、カメラヘッドにあるフリーズキー（#29）を2秒間押すことでも呼び出すことができます。

設定を保存するには、それぞれの機能を必要に応じて調整した後、リモコン上のPRESETキーを2秒以上押し続けます。プリセットが保存されると、スクリーン上にメッセージが表示されます。
プリセットはオンスクリーンメニューでも設定することができます。

上記の方法で、ズーム、フォーカス、アイリス等の現在の設定がすべてプリセットとして保存されます。これとは別に、オンスクリーンメニューで、「ネガポジ反転」、「ネガ-ブルー反転」、「白黒反転」といった特定の機能のみをプリセットキーに予め設定することも可能です（13ページ参照）。

9画像メモリー（VZ-8plus³のみ）

保存した9画像の分割表示画面

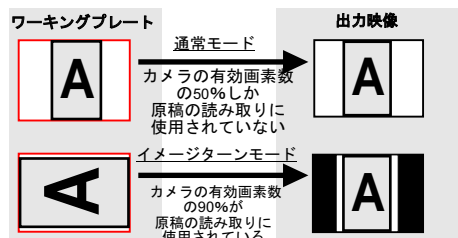
赤外線リモコンにある数字キー（#42）のいずれかを押すだけで、9つまで画像を保存したり、呼び出したりすることができます：

画像の保存：　保存したい番号のMEMORYキー（#42）を2秒以上押し続けます。

画像の呼び出し：呼び出したい番号のMEMORYキー（#42）を素早く押します

「All」キー（#38）を押すと、メモリーに保存された9つすべての画像が分割表示されます。
「All」キー（#38）を4秒間押し続けるとスクリーンにメッセージがあらわれ、保存した画像をすべて消去するか（black picture）、「snapshot」をメモリーいっぱいまで保存するかをきいてきます。「snapshot」を選択すると、9つのメモリがいっぱいになるまで、毎秒ひとつずつ新しい画像を保存していきます。
VZ-8plus³には、バッテリーバックアップ機能がありますので、本体の電源を落としても最長で4週間は画像が保存されています。

メモリー消去機能の設定は、オンスクリーンメニューで変更することができます。

解像度向上のための「イメージターンモード」（VZ-8plus³のみ）

通常、映像の読み取りは横長のフォーマットで行われるため、A4サイズの縦長ページ全体を読み取ることは、ビジュアライザーにとって常に難問でした。
縦長の文書を読み取る場合、カメラの有効画素数のたった50%しか使用することができなかったのです。
ヴォルフビジョン独自の「**イメージターン**」モードがこの問題を解決します。

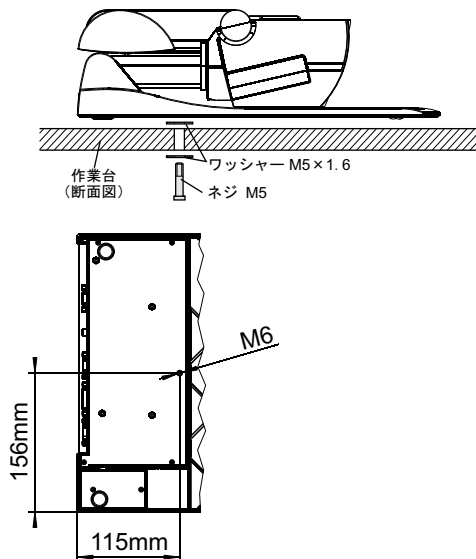
ワーキングプレート上に文書や縦長の被写体を横向きに置き、画面いっぱいになるまで拡大します。こうすることで、カメラの有効画素数のおよそ90%を使用することができます。次にIMAGE TURNキー（#34）を押します。ビジュアライザーは読み取った画像を電気的に90度回転させ、従来よりも**はるかに高い解像度**で縦長のままで表示します。左右の余白部分は、黒塗り表示されます。

文字強調

テキストやスケッチ、X線写真などを読みやすくするために、予め設定されたPRESETキー（#33）でテキストモードを作動させることができます。
このモードでは、画像のコントラストが強調されます。ただし、全体の色は**通常より若干暗め**になります。文字強調モードを解除するには、該当するPRESETキーを再度押してください。
文字強調モードが作動している間は、「TEXT」というメッセージが画像に表示されてたままになっています。
したがって、この機能が不要になったときも、忘れずに解除することができます。
また、暗い色調を修正しようと、誤ってアイリスを開いて画質を落としてしまうことも防げます。

盗難防止装置（Tバーロック）

ビジュアライザーは、セキュリティーケーブルTバーロック（Kensington®ロック）で固定することができるので、**盗難の恐れがありません**。
詳細は、ケーブルロックの説明書に従ってください。

盗難防止用作業台固定ボルト

ビジュアライザーを、付属の固定ボルトで作業台に固定することでも、盗難防止対策がとれます。

使用可能なネジ山の深さは8mmなので、それ以上長いネジは使用しないでください。

外部入力

EXT / INT

コンピューターはビジュアライザーの **External RGB 入力端子**(#15)に接続できます。**外部入力切替スイッチ** (#30 または #37) で、ビジュアライザーで取り込んだ映像と外部からの入力映像を切り替えて表示することができます。
この際、コンピューターからの信号は、ビジュアライザーを経由するだけでいかなる処理も行われません。画像を切り替える度に、ご使用のプロジェクターやモニター側で調整されることを防ぐため、コンピューターの出力を、ビジュアライザーの信号形式、垂直周波数と同じ設定にしておくことをお薦めいたします。
External RGB 入力端子（#15）から取り込んだ画像は、RGB出力端子（#17）からのみ出力されます。

DVIポート

1 - T.M.D.S. Data2-
2 - T.M.D.S. Data2+
3 - T.M.D.S. Data2/4 Shield
4 - T.M.D.S. Data4- *(*)*
5 - T.M.D.S. Data4+*(*)*
6 - DDC Clock
7 - DDC Data
8 - Analog Vertical Sync *(**)*

9 - T.M.D.S. Data1-
10 - T.M.D.S. Data1+
11 - T.M.D.S. Data1/3 Shield
12 - T.M.D.S. Data3- *(*)*
13 - T.M.D.S. Data3+ *(*)*
14 - +5V Power
15 - Ground (return for +5V, HSync and Vsync)
16 - Hot Plug Detect

17 - T.M.D.S. Data0-
18 - T.M.D.S. Data0+
18 - T.M.D.S. Data0+
19 - T.M.D.S. Data0/5 Shield
20 - T.M.D.S. Data5- *(*)*
21 - T.M.D.S. Data5+ *(*)*
22 - T.M.D.S. Clock+
23 - T.M.D.S. Clock-
24 - Analog Vertical Sync *(**)*

* 不使用
** 未対応

出力モードの選択

DVI および RGB 出力端子 (#16 および #17) は、以下の信号形式で出力可能です：

VZ−8light3
- XGA (4:3− 1024×768 ピクセル) @ 60Hz
- **SXGA- (4:3− 1280×960 ピクセル) @ 60Hz (ネイティブ画像)**

- WXGA/60 (16:9 ワイドスクリーン − 1366×768 ピクセル) @ 60Hz
- **720p (16:9 ワイドスクリーン HD − 1280×720 ピクセル @ 60Hz(ネイティブ画像)**

以下はVZ-8plus3のみ対応可能です：
- SVGA (4:3− 800×600 ピクセル) @ 60Hz
- XGA (4:3− 1024×768 ピクセル) @ 60Hz
- **SXGA- (4:3− 1280×960 ピクセル) @ 60Hz (ネイティブ画像)**
- SXGA (5:4−1280×1024 ピクセル) @ 60Hz
- SXGA+ (4:3−1360×1024 ピクセル) @ 60Hz
- XGA 16：9(HD対応でない16：9プラズマディスプレイ用形式) @ 60Hz
- WXGA/60 (16:9 ワイドスクリーン − 1366×768 ピクセル) @ 60Hz
- **720p (16:9 ワイドスクリーン HD − 1280×720 ピクセル @ 60Hz(ネイティブ画像)**

デフォルトは「**自動解像度認識**」モードに設定されています。このモードでは、ビジュアライザーがRGB出力端子 (#17) と DVI出力端子 (#16)にどのような機器が接続されているかを認識し、それぞれの機器に最適な出力モードを自動設定します。
接続されている機器やケーブルが、「プラグアンドプレイ」に対応していない場合は、ビジュアライザーが適切な解像度を選択できないのでご注意ください。ビジュアライザーが接続された機器の解像度を検知できない場合は、デフォルトのSXGA-(1280×960 ピクセル) @ 60Hz に設定されます。
（*プラグアンドプレイ対応ケーブルは、両端のコネクタ部分が15ピンで、すべてのピンが接続されますが9番ピンは使われません。）

「自動解像度認識」機能が使えない場合は、オンスクリーンメニューで任意の出力モードを選択することができます（13ページ参照）。

最高の画質を得るため、使用するディスプレイ（LCD、DLPプロジェクターやモニター）の<u>ネイティブ</u>解像度に合った出力モードにビジュアライザーを設定して下さい。
<u>重要</u>：ここで言うプロジェクターまたはモニターの<u>ネイティブ</u>解像度とは、圧縮モードで表示可能な最大解像度ではなく、プロジェクターまたはモニターに内蔵されたLCDや、DLPチップの実際のピクセル数のことです。
ほとんどの LCDあるいはDLPプロジェクターは、ネイティブ以上の解像度で表示することが可能ですが、圧縮モードなので画質は劣化します。
ビジュアライザーの出力モードは、使用するディスプレイのネイティブ解像度よりも高く設定しないで下さい。

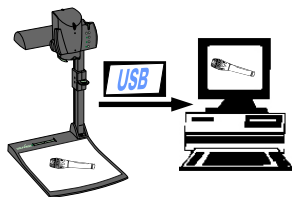
モニターやプロジェクターが表示できるリフレッシュレートよりも高いレートを設定すると、故障する原因になりますのでおやめください。
ご使用の際は、接続機器の取扱説明書に従ってください。

PAL/NTSCビデオ出力（VZ-8plus³のみ）

PAL/NTSCビデオ出力（コンポジットおよびSビデオ）は、デフォルトではOFFに設定してあります。PAL/NTSCビデオ技術の限界により、DVIやRGB出力に比べて出力映像の画質がかなり劣ってしまうためです。低画質の出力を誤ってメインの画像出力に選択することがないようにするための設定です。
PAL/NTSCビデオ出力をご使用の際は、以下のようなキー操作を行ってください：

PAL: カメラヘッドにあるFOCUSキー（#27）とリモコン上のPreset1キー（#33）を同時に押してください。
NTSC: カメラヘッドにあるFOCUSキー（#27）とリモコン上のPreset2キー（#33）を同時に押してください。

PAL、**NTSC**、**OFF**のビデオ出力の切り替えは、オンスクリーンメニューでも行うことができます。

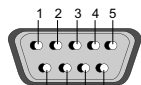
USBポート

ビジュアライザーのUSB出力（＃20）は、ビジュアライザーからコンピューターに画像を転送し、それをJPG、TIF、BMP等のフォーマットで保存するのに使えます。
このようにして、ビジュアライザーを立体物スキャナとしてもご利用いただけます。ヴォルフビジョンのビジュアライザーは、高速USB2.0ポートを搭載しています。
これにより、たった1秒でコンピューター上に画像をアップロードできます。

低速のUSB1.1搭載の旧式なコンピューターもまた問題なく使えます。低速とはいえ、デスクトップスキャナーで画像を取り込むよりもわずかに時間がかかるだけです。ヴォルフビジョンのコネクティビティソフトウェア（USBソフトウェア）は、Windows2000、XP、Vista および、Apple Macintosh OS 10.2（もしくはそれ以上）で動作し、完全にTwain互換です。これは、ビジュアライザーをPhotoshopのような汎用のグラフィックソフトや、SMART Boardのようなインタラクティブ ホワイトボード（電子黒板）に接続して使用する際に重要です。

高速のUSB2.0ポートは動画も出力できます。ヴォルフビジョンのコネクティビティソフトウェアはビデオキャプチャードライバを含んでいるので、AVIファイルも保存できます。最近のビデオ編集ソフトならどれでも、ビジュアライザーで撮影した動画をコンピューターで再生、保存できます。

コネクティビティソフトウェアの最新版は、ホームページ **www.wolfvision.co.jp** よりダウンロードできます。

RS 232、シリアルコントロール入力

シリアルポートを使って、会議室の遠隔操作システムのような外部装置からビジュアライザーを操作することができます。

本体前面の9ピン D-Sub 接続端子、オス

ピン： 2: RX、 3: TX、 5: GND
ボーレート： 9200、19200、 38400、57600、115200 (選択可)
データビット：8、ストップビット：1、パリティ：no
ボーレートはオンスクリーンのExtraメニューで変更することができます（12ページ参照）。

シリアルプロトコルの詳細は、 **www.wolfvision.co.jp** を参照してください。

以下の項目は、上級ユーザー向けです：

オンスクリーンメニュー / オンスクリーンヘルプ

通常の使用においては、メニュー機能の使用や設定変更は必要ありません。操作に慣れるまでは、ここでご紹介する操作は行わないでください。

オンスクリーンメニューは、MENUキー（#30または #43）を1秒間押して表示します。
ビジュアライザーと内蔵カメラの基本設定は、リモコン上の4つのSELECTキー（赤い矢印のある番号キー：#40）またはカメラヘッドにあるZOOMハンドル（#26）やFOCUSキー（#27）を使って行うことができます。
メニューの中には、「Format protect」を「OFF」にしないと、変更できない設定項目もありますので、ご注意ください。

オンスクリーンメニューの内容についてより詳細な情報が必要な場合は、該当する行にカーソルを合わせ、HELPキー（#41、5番キー）またはカメラヘッドにあるAFキー（#28）を押してください。 その項目に関する詳細な説明がスクリーンに表示されます。
選択している項目をデフォルト設定にリセットする場合は、HELPキー（#41または#28）を2秒間押してください

MENUキーを4秒間押し続けると、Extra Menuが表示されます。
Extra Menuでは、ボーレートなどの設定を変更することができます。

ヘルプメニューはビジュアライザーのソフトウェア（ファームウェア）と連動しているので、オンスクリーンメニューの機能についての詳細は本取扱説明書に記載しておりません。画面でご確認いただける情報は、その時点でのビジュアライザーのファームウェアの内容です。

ネガポジ反転、ネガ-ブルー反転、白黒反転への切替

ビジュアライザーの出力画像は、オンスクリーンメニューでネガポジ反転に変更することができます。さらにテキストを読みやすくするために、ネガポジ反転画像の背景を青に変更することもできます。カラーや白黒反転への切り替えも可能です。

ワンポイント：ネガポジ反転、ネガ-ブルー反転、白黒反転などをよくご使用になる場合は、オンスクリーンメニューでPresetキーに登録しておくと便利です（7ページ参照）。

カラーコントラストの標準設定変更

スクリーンの画像や色が暗すぎると感じる場合は、オンスクリーンメニューの「Color Setting」で、画像全体のコントラストを低くすることができます。
ノーマルモード用とテキストモード用をそれぞれ設定することができます。

自動電源オフ

オンスクリーンメニューの「Power Control」では、一定の時間が経つと自動的にビジュアライザーの電源が切れるように設定することができます。

オンスクリーンメニュー設定のリセット

オンスクリーンメニューで行った設定は、すべて工場出荷時のデフォルトに戻すことができます。「Reset」はオンスクリーンメニューの項目の一つです。スクリーン上でメニューを確認できない場合も、カメラヘッドにあるFOCUSキー（#27）とリモコン上の**4番**キー（左矢印：#40、ただしVZ-8plus³のみ）を同時に押すことでデフォルトに戻せます。
選択している項目だけをデフォルト設定に戻したい場合は、HELPキーを2秒間押してください。

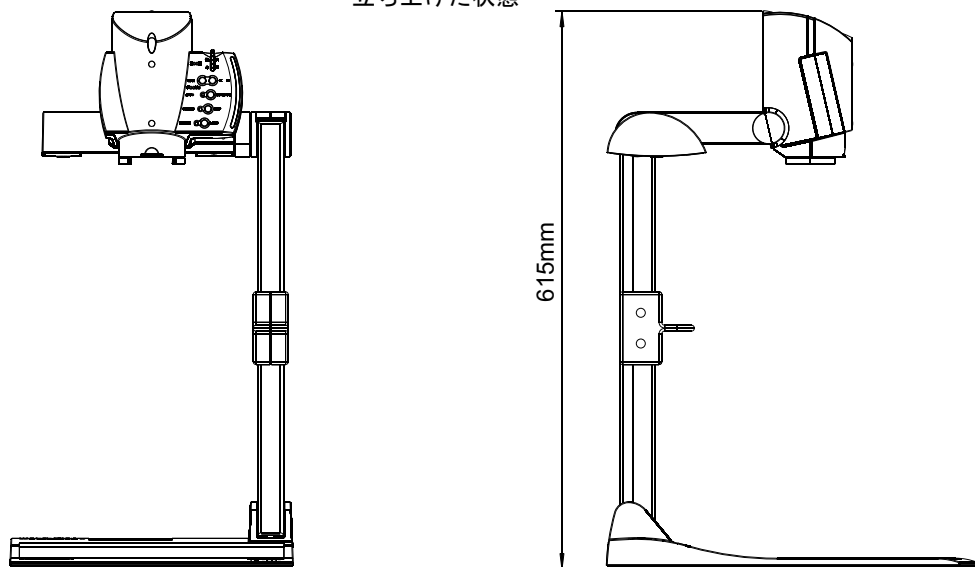
ファームウェアのアップグレード

オンスクリーンのHELPメニューを含むビジュアライザーのソフトウェア（ファームウェア）は、簡単に最新バージョンにアップグレードするこができます。
ファームウェアのアップグレードは、USBもしくはRS232経由で行います。

ファームウェアアップグレードのためのファイルは、ホームページから無料でダウンロードできます： **www.wolfvision.co.jp**
USB経由の場合は、ヴォルフビジョンのコネクティビティソフトウェアを使い、RS232経由の場合は、ヴォルフビジョンのファームウェアアップデートユーティリティを使用します。どちらもホームページ上にあります。

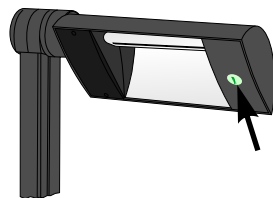
RS232接続の場合は、R232専用のクロスケーブル（ヌルモデムケーブル）を使用してください。

外形寸法図

立ち上げた状態

折りたたんだ状態

メンテナンス

ビジュアライザーのランプ交換

1. 電源コードを抜きます。
2. 硬貨などを使ってカバーのネジをはずします。
3. ランプカバーごと回して取り外します。
4. ランプを交換します。
   新しいランプを慎重にソケットに差し込んでください。
   注意：ランプが高温になっている場合があります。
5. 3から1へ戻る手順で、ランプカバーを再び取り付けます。

<u>ランプの種類</u>：　9W 高周波蛍光ランプ　平均寿命10, 000時間
ヴォルフビジョン 部品番号100040

お手入れ方法

本体：　柔らかい布などでそっと拭いて汚れを落としてください。
レンズ：　糸くずの発生しない柔らかい布でそっと拭いて汚れを落としてください。ティッシュペーパーは使用しないでください。軽く息を吹きかけてレンズを湿らせてから、柔らかい布で拭きとります。もしくは専用のクリーナを使用し、それ以外は使用しないでください。

アセトンやベンジンなどの強力なクリーナーは絶対に使用しないでください。表面を傷めたり、反射防止コーティングが損なわれる恐れがあります。

赤外線リモートコントロール（VZ-8plus^{3}のみ）

赤外線リモートコントロールは、本体から一定の距離内でのみ使用できます。ビジュアライザーとリモコンの間に障害物があったり、リモコンの電池が減っている場合には、十分に作動しないことがあります。

至近距離からでなければうまく作動しなくなったり、まったく使えなくなった場合は、電池を交換してください。
リモコン背面のカバーを開け、新しい1.5V の単三電池2個と交換してください。
その際、電池の極性を確認してください。

前面　背面（開）

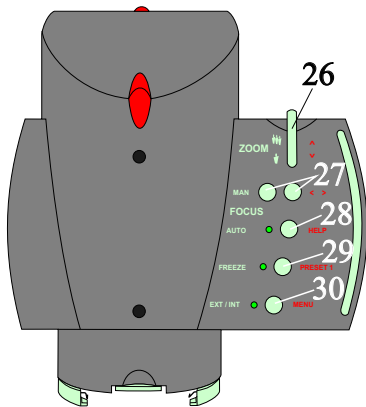
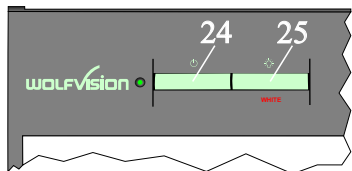
赤外線コードの変更（VZ-8plus^{3}のみ）

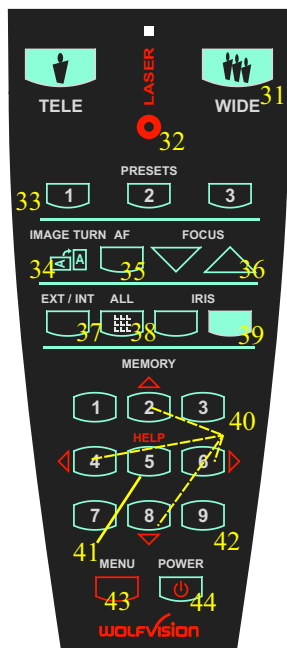
同じ室内で複数のビジュアライザーを使用する場合は、異なる赤外線コードで、それぞれの機器を個別に操作する必要があります。

赤外線コードを変更するには、オンスクリーンメニューから 「Misc. Settings」を選択し、「IR Code」 の A、B、C、D のいずれかに設定します（デフォルト設定はA）。
リモコンの赤外線コードを変更するには、**PRESET 1**、**PRESET 2** (#33) と **ZOOM TELE** (#31) を同時に押してください。その度にコードは A、B、C、D 、A ...の順に切り替わります。初期設定のコード A に戻す時は、 **PRESET 1**、**PRESET 2**、**ZOOM WIDE** キーを同時に押して下さい。
LEDが選択されたコードを点滅回数で表示します。
（点滅回数： コードA：1回、コードB：2回、コードC：3回、コードD：4回）

技術仕様

	VZ-8light³	VZ-8plus³
カメラ技術	1-CCD 1/3″ プログレッシブスキャン	
フレームレート(カメラの読取速度)	30フレーム(=フル画像)	
有効画像数(画像情報に使用されるピクセル数)	1280 x 960 (=1,228,800)	
CCDの総画素数	1,320,000	
毎秒の処理画素数(=有効画像数 x 毎秒のフレーム数)	36,864,000	
色再現性	鮮やかな色再現(sRGB色精度)	
ネイティブ出力信号	SXGA-(1280 x 960) および HD 720p (1280 x 720)	
出力信号	HD 720p / WXGA / SXGA- / XGA(切替可)、USB 2.0	HD 720p / WXGA / SXGA+ / SXGA / SXGA- / XGA / SVGA(切替可)、NTSC / PAL(切替可)、USB 2.0
水平解像度(測定値)	750 本	
イメージターンモード(縦長原稿を解像度を向上させて表示)時の解像度	-	960 本
イメージターンモード時の画像回転	-	90度、180度、270度
垂直同期周波数	プログレッシブスキャン: 60 Hz	プログレッシブスキャン: 60 Hz NTSC: 60 Hz / PAL: 50 Hz(切替可)
水平同期周波数	プログレッシブスキャン: 45 - 60 kHz	プログレッシブスキャン: 37.9 - 65.2kHz NTSC/PAL: 15.7 Hz
信号フォーマット	ノン インターレース	
アイリス(絞り)	自動(オンスクリーンメニューで手動)	自動 または 手動
シャッター	自動、手動、フリッカーレス	
ホワイトバランス調整	自動 または 手動	
オートフォーカス(速度) / 手動フォーカス	有 (常時高速稼動) / 有	
文字強調 (カラー)	有	
オンスクリーンメニュー / オンスクリーンヘルプ	有	
ファームウェア アップデート	USB、シリアル(RS232)経由	
レンズ / ズーム	24倍ズーム(光学12倍 + デジタル2倍)、ズームハンドルは2種類の速度設定可	
ワーキングプレート上の最大被写体高	230mm(テレ)、 370mm(ワイド)	
ワーキングプレート上の最大読取範囲	長さ:276mm、 幅:370mm	
イメージターンモード時ワーキングプレート上の最大読取範囲	-	長さ:370mm、 幅:276mm
ワーキングプレート上の最小読取範囲(光学ズーム最高解像度)	33 x 25 mm	
ワーキングプレート上の最小読取範囲(デジタルズーム)	17 x 13 mm	
ワーキングプレート外の撮影範囲	無限	
被写界深度 小被写体 (42 x 33 mm)	10mm	
被写界深度 大被写体 (360 x 270 mm)	260mm	
聴衆または講演者の眩惑	なし	
光源	ロングライフ高周波蛍光灯 9W、ランプ寿命:10,000時間	
コネクティビティソフトウェア (USBソフトウェア=操作および画像取込用)	付属 (Windows用、Macintosh用、Twain対応、ビデオキャプチャドライバー付き)	
ワーキングプレート上の無反射範囲	ワーキングプレート全体	
ワーキングプレート外での撮影	有 (機器の前方と後方)	
自動画像反転 (イメージ フリップ)	有 (機器の前方)	
折り畳み収納	空圧式アーム、 2ステップ セットアップ	
ユーザー設定プリセット	1 (+ RS232経由カスタム設定 x 2 + 固定 x 8)	3 (+ RS232経由 固定 x 8)
透過原稿用特殊表面加工ワーキングプレート	有	
ボトムライト	ライトボックス(別売)使用	
スライド投影	ライトボックス(別売)使用	カメラヘッド装着のスライドドロワー使用
コンピューター入力 / 信号切替	有 (RGB 15ピン D-Sub/VGA プラグ)	
画像メモリー	1 フリーズ画像	9 画像(バッテリーバックアップ)、1 フリーズ画像
メモリー画像の分割画面表示(保存した画像すべてを1画面に表示)	-	有
特殊画像表示	ネガ / ネガ-ブルー / 白黒	
NTSC/PAL ビデオ出力	-	コンポジット (RCA)、S-ビデオ(Y/C、4ピン) プログレッシブスキャンより変換
RGB (=データRGB) 出力	1 (15ピン D-Subプラグ)	
DVI / HDMI 出力	DVI-D(デジタル) / DVI-HDMI ケーブル使用	
USB 端子 / 規格	USB 2.0	
RS232ポート、シリアルプロトコル (ポジション設定、ステータスレポート)	9ピン D-Subプラグ	
12V出力	外付ライトボックス用	
動作時寸法(縦 x 横 x 高さ)	408mm x 312mm x 615mm	
収納時寸法(縦 x 横 x 高さ)	405mm x 312mm x 125mm	
重量	5 kg (ポータブル)	
赤外線リモコン	-	有 (レーザーポインター付き)
電源(外付電源アダプター)	マルチ電圧 100-240 V, 60W 重量: 0,3 kg	
耐久温度	0℃ - +40℃	
ダストカバー / キャリーケース	付属 / オプション	
盗難防止	T-ロック (kensington® ロック) および 卓上固定ネジ	
保証期間	3年	
生産国	オーストリア(EU)	

製品のデザインおよび仕様は予告なく変更する場合がありま

リモートコントロール（VZ-8plus³ のみ）

コード

ワンプッシュホワイトバランス：
ワンプッシュホワイトバランス機能を作動させるには、LIGHTキー（#25）を2秒間押してください。

オンスクリーンメニューの起動：
カメラヘッドにあるMENUキー（#30）（EXT/INTキー）を2秒間押すと、オンスクリーンメニューが表示されます。メニューの選択には、**ズームハンドル**（#26）またはFOCUSキー(#27)を使用します。
ヘルプ機能を使用するには、AFキー（#28）を押してください。

PRESET1の呼び出し：
カメラヘッドにあるPRESET1キー（#29）を2秒間押してください。

ビデオ出力（PALまたはNTSC）（VZ-8plus³のみ）：
PAL：　カメラヘッドにある2つのFOCUSキー（#27）とFREEZEキー（#29）を同時に押してください。
NTSC：　カメラヘッドにある2つのFOCUSキー（#27）とEXT/INTキー（#30）を同時に押してください。

赤外線リモコン用コード（VZ-8plus³のみ）

プリセットの保存：
PRESETキー（#33）のいずれかを2秒間押してください。

画像の保存：
MEMORYキー（#42）のいずれかを2秒間押してください。

素早いメモリーの保存：
ALL キー (#38) を 4秒間押します。その後は、オンスクリーンメニューの指示に従ってください (スナップショットは **MEMORY 1** キー (#42) を メモリーの消去には **MEMORY 3**キー (#42) を押して下さい)。

オンスクリーンメニューの起動：
オンスクリーンメニューを起動するには、MENUキー(#43) を 1 秒間押して下さい。メニューの選択は、矢印のついた番号キー（#40）を使用します。**ヘルプ機能は5番キー (#41) を押して下さい。**

出力モードの切り替え：
高いモードへ：　カメラヘッドにある2つのFOCUSキー (#27) とリモコン上の2番キー (上矢印) (#40) を同時に押して下さい。
低いモードへ：　カメラヘッドにある2つのFOCUSキー (#27) とリモコン上の8番キー (下矢印) (#40) を同時に押して下さい。

出力モードのデフォルト「自動解像度認識」へのリセット：カメラヘッドにある2つのFOCUSキー (#27) とリモコン上の5番キー (#41) を同時に押して下さい。

メニューのリセット：
カメラヘッドにある2つのFOCUSキー (#27) とリモコン上の**4番**キー (左矢印) (#42) を同時に押して下さい。
選択している項目だけをリセットする場合は、リモコン上の5番キー (#41) を 2秒間押して下さい。

ビデオ出力 (PAL または NTSC)：
PAL:　カメラヘッドにある2つのFOCUSキー (#27) とリモコン上の**Preset 1**キー (#33) を同時に押して下さい。
NTSC:　カメラヘッドにある2つのFOCUSキー (#27) とリモコン上の**Preset 2**キー (#33) を同時に押して下さい。

赤外線コードの変更：
オンスクリーンメニューの「Misc. Settings」(デフォルト設定はA) から赤外線コードを変更します。
PRESET 1、**PRESET 2** (#33) と **ZOOM TELE** (#31) を同時に押すとその度にコードはA、B、C、D、A…の順に切り替わります。
初期設定のコードAに戻す時は、**PRESET 1**、**PRESET 2**(#33) と **ZOOM WIDE** (#31) を同時に押して下さい。

◆ 便利メモ（お買い上げ時にご記入下さい）◆

お買い上げ 年　月　日		品　番	
		製造番号	
お買い上げ の販売店名	TEL　（　）	FAX　（　）	

※ 弊社製品保証につきまして

- 弊社では、製品の製造番号にて保証期間を管理しておりますので、製品保証書を発行致しておりません。
- 保証期間は、製品出荷日より3年間有効です。
- お問い合わせの際には、必ずモデル名と製造番号をお知らせ下さい。

連絡先:

日本国内:
株式会社ヴォルフビジョン
〒160-0023　東京都新宿区西新宿8-1-16　アドバンスビル2F
Tel. 03-3360-3231, Fax: 03-3360-3236, E-mail: wolfvision.japan@wolfvision.com

ホームページ: www.wolfvision.co.jp
お問い合わせ: wolfvision.japan@wolfvision.com

製造元 / 本社:
WolfVision GmbH, Vlbg. Oberes Ried 14, A-6833 Klaus / AUSTRIA,
Tel. ++43-5523-52250, Fax. ++43-5523-52249, E-Mail: wolfvision@wolfvision.com

2008年9月　日本にて印刷